



テレビジョンマッチオフィシャル (TMO) の プロトコルについて

更新日: 2022 年 5 月 施行日: 2022 年 7 月 1 日

本プロトコルの意図は、TMO が判断を下せるようにすることではなく、状況や事態、またはヒューマンエラーによってオンフィールドチームがサポートを必要とする時に、より良い、より正確な審判を行うため、TMO がフィールドチームのサポートを行うことができるようにすることである。

ワールドラグビー競技規則第 6 条では、現在、ゲーム全般において、マッチオフィシャルが判定を下す際に TMO を使った判定の補佐を求めることができると規定しています。

セクション 1: 基本的ガイドライン

- レフリーは、レフリーチームにおける主審であることに変わりはない。このプロトコルの意図は、レフリー、アシスタントレフリー、TMO、（通称「チームオブ 4」）がより良い、より正確な判定を集団で行うためにテクノロジーを用いたソリューションを提供することにある。このプロトコルは、レフリーが判定の責務や義務を免れることを意図するものではない。
- このプロトコルは、一般的に「明白かつ一目瞭然」（CLEAR & OBVIOUS）と定義される領域で対処することを目的としている。わかりやすくするために付け加えると、これは他の方法では審判されそうにない出来事と定義される。試合中の出来事で、競技規則の観点から容易に識別可能なものを指す。
- TMO システムの適用には信頼性と一貫性を担保しなければならず、そうすることでゲームの完全性を維持し、同時にラグビーの試合中における明白かつ一目瞭然の「ビッグモーメント（重大な瞬間）」に対応しようとするものである。
- レフリーが TMO の使用を要求し、スタジアムの電光掲示板で映像を見ることができるとした場合、TMO の判定を補佐するためにレフリーとアシスタントレフリーもその映像を使うことができる。
- レフリーは、チームオブ 4 (TO4) がレフリーの補佐に適用される事実を提供できるような環境を作り、TMO への補佐の要請プロセスを指揮することができるよう意図する。その後、レフリーはすべての情報を照合し、判定プロセスを指揮する。

- このプロトコルは、試合上で最善の判定を下すために協議が必要な時に、T04がTMOによる補佐を正式に要請できるようにすると同時に、特定の結果について疑いの余地がない場合には、TMOがライブコールを行えることができるようにすることを意図している。このライブコールについては、セクション2でさらに詳しく定義する。

セクション 2: 補佐の要請の種類

- T04 のメンバーであれば、TMO 自身を含め、誰でも TMO に事象/出来事について補佐の要請を行うことができる。
- 補佐の要請は、正式な要請とライブ補佐要請に分類される。
- 正式な要請:
 - 表面上、**セクション 1 の「基本的ガイドライン」**に記載された原則に合致する事象についての補佐を T04 のメンバーが正式に要請したい場合、レフリーは手で「T」のジェスチャーを出して正式にタイムアウトを要求し、次に TMO ボックス（大きく四角を描く）のハンドジェスチャーを出して、TMO に正式に関与させる。
 - トライの得点に関連する判定の場合、レフリー（および、該当する場合はアシスタントレフリー）は オンフィールドで判定を行い、TMO にその判定に役立つ特定の放送映像の角度を提供するよう求める。簡潔に言うと、フィールド上での判定は次の 2 つのシナリオのうちのいずれかとなる場合がある。
 - オンフィールドでの判定は「**トライ**」～ その判定を立証する理由がある。
 - フィールドでの判定は「**ノートライ**」～ その判定を立証する理由がある。
 - コンバージョンが行われた後で、ただし試合が再開する前に、反則が行われたことが明らかに示される角度の映像を放送局が提供した場合、TMO/レフリーはその反則を処理するために、ビデオ判定プロセスを用いなければならない。
 - T04 がフィールド上で「**トライ**」か「**ノートライ**」かの判定を確定できない場合、レフリーは、**トライが成功したかどうか**をオンフィールドチームが判断できないことを示し、集合的に、より正確な判定ができるような角度の映像を提供するよう TMO に要請することができる。
- ライブ要請:
 - T04 のいずれのメンバーも、正式に TMO に要請することなく正確な判定を行うことができる場合。
 - この要請は、「**セクション 3: ライブ要請に関するプロトコルの詳細**」に含まれる規定に従い、オンフィールドチームが正式な要請を必要と **しない**「明確で一目瞭然の出来事/判定」を見落とししたことが明らかの場合にのみ使用されることを意図する。
 - これは、ビデオリプレイまたは遅延画面（ディレイスクリーン）で確認した TMO によるライブコールとなる場合がある。
- 各要請タイプにおける範囲については、以下の「**セクション 3: プロトコルの詳細**」でさらに詳しく説明されており、**下線部**の競技規則は、ライブ要請が行われる場合に適用されるものとする。

セクション 3: プロトコルに関する詳細

- 試合主催者は、テレビジョンマッチオフィシャル (TMO) と呼ばれる審判員を指名することができる。この審判員は、レフリーおよびアシスタントレフリーとともに、基本的ガイドラインの意図の範囲内で、利用可能な技術装置およびビデオ映像再生システムを使用し、以下の事柄に関する状況を明らかにすることができる。

▪ 一般的なプレー

トライに至る直前の 2 フェーズにおいて **明白かつ一目瞭然**の違反があった、または トライが得られる可能性のあるプレーを妨げる明らかな違反があったとマッチオフィシャルが信じる場合。

正式なレビューに分類される審判において、この期間内にチェックされる可能性のある競技規則は次の通りである。

○ **競技規則第 8 条: 得点**

- 攻撃側、防御側を問わず、インゴールでのボールのグラウンディングに関するすべての出来事 (ボールがデッドになったかどうかも含む)。
- トライをする行為に関連するすべての出来事 (以下の場合を含む)。
 - プレーヤーがラインの手前でタックルされ、インゴールへの動きが連続的であったかどうか疑わしい場合。
 - ゴールラインの手前でタックルされたプレーヤーが、直ちに手を伸ばしてトライを決めた/ボールをグラウンディングしたかどうか疑わしい場合。
- キックが成功したかどうかに関連するすべての出来事。
- ペナルティトライを与えるべきか否かに関するすべての出来事。
- プレーヤーがタッチ、またはタッチインゴールであったかどうかに関するすべての出来事、そしてそれが該当する時間枠に関する規定に沿っている。

○ **競技規則第 10 条: オープンプレーにおけるオフサイド**

- トライにつながったかもしれない直前の 2 フェーズで起きたすべての **明白かつ一目瞭然**のオフサイドの反則。

○ **競技規則第 11 条: ノックオンまたはスローフォワード**

- トライにつながったかもしれない直前の 2 フェーズで起きたすべての **明白かつ一目瞭然**のノックオンまたはスローフォワードの反則。
- オンフィールドチームが、スクラムでボールを投げ入れる権利を反則したチームに与えてしまった **明白かつ一目瞭然**のノックオンすべて。

- **競技規則第 15 条 4～9 項: ラックにおけるオフサイド**
 - トライにつながったかもしれない直前の 2 フェーズで起きた、競技規則上「**ラックに参加する**」におけるすべての**明白かつ一目瞭然**のオフサイドの反則。

- **競技規則第 16 条 4～7 項: モールにおけるオフサイド**
 - トライにつながったかもしれない 2 フェーズで起きた、競技規則に定義された「**モールでのオフサイド**」と「**モールへの参加**」が規定するすべての**明白かつ一目瞭然**のオフサイドの反則。

- **競技規則第 18 条 2～7 項: タッチ、クイックスロー、ラインアウト**
 - 18.2 – 18.7:
 - 攻撃側プレーヤーと防御側プレーヤーに関するすべてのタッチまたはタッチインゴールの判定。なお、ボールがタッチになったかどうか、さらにラインアウトで誰がボールを投入すべきかを含む。
 - また、クイックスローが適用できるかどうか、正しく行われたかどうかとも含まれる。
 - 18.8:
 - ラインアウトで誰がボールを投入すべきか、およびラインアウトが行われるべき位置に関するラインアウト関連のすべての要請。
 - 18.30 – 18.36:
 - トライにつながったかもしれない 2 フェーズで起きた、競技規則で定義されている**明白かつ一目瞭然**のオフサイドの反則。

- **競技規則第 19 条 27～33 項: スクラムにおけるオフサイド**
 - 「**スクラムでのオフサイド**」に特定し、また、競技規則に定義されている通り、そして、トライにつながったかもしれない 2 フェーズで起きたすべての**明白かつ一目瞭然**のオフサイドの反則。

- **競技規則第 21 条: インゴール**
 - 攻撃と防御の両方におけるインゴールに関する全項目（以下を含む）
 - グラウンディング
 - トライにつなげた一連のアクション
 - タッチ、およびタッチインゴール
 - コーナーフラッグポストに関する判断
 - ゴールラインからのドロップアウトでの再開

試合のどの段階においても（すなわち、トライにつながったかもしれない直前の2フェーズに限らず）T04 は次の競技規則について TMO に補佐を要請することができるが、プレーの次のフェーズが開始する前であればならない。また、セクション 1 で定義された基本的ガイドラインの範囲内、かつ基本的ガイドラインに関連するものでなければならない。

競技規則第 9 条: 不正なプレー

以下のような場合（しかしこれらに限らない）**明白かつ一目瞭然**のすべての反則（**競技規則第 9 条 19 項「スクラムにおける危険なプレー」**を除く）について、試合再開まで（なお、これにはペナルティキック後のラインアウトも含む、ただしその時になってはじめて映像が利用できる場合）補佐を要請することができる。

- 妨害行為（重大な影響があると判断される場合で、基本的ガイドラインにある**明白かつ一目瞭然**に合致した行為）
- 不正なプレー & 反則を繰り返すこと
- 危険なプレー（ヘッドコンタクトプロセス（HCP）文書などの追加文書に含まれるプロセスを考慮する必要がある場合。
- 意図的なノックオンを含む悪意あるプレー。
- イエローカード、レッドカードの発行